

◎臨時理事会 (36.1.16) 出席者: 沼田会長, 外理事 10 名および最上論文集編集委員長, 西脇幹事。議事: 1) 36 年度論文集発行計画について臨時理事会を開催し, 論文集配布制度を改正して 36 年度予算編成の基礎を得るため協議の結果次のように決定した。

和文一総合印刷一有料一希望者配布一年 6 回発行 (1 回 58 ページ, 3000 部発行予定)一年間会費 600 円程度とする。

2) 運輸省第二港湾建設局より依頼の東京湾輸送調査に関する研究を受託することに決定した。

1. 委員会名: 東京湾沿岸地域における貨物流動調査委員会
2. 35 年度事業: 東京湾沿岸地域における貨物流動の現状と問題点
3. 委員会構成: 委員長 沼田政矩, 副委員長 八十島義之助, 幹事長 宮崎茂一の諸氏を決定し, 各関係委員および幹事はあって協議すること。

◎第 8 回理事会 (36.1.26) 出席者: 沼田会長, 外理事 8 名。議事: 1) 36 年度予算編成に関する事項 a) 特別委員会および定期刊行物頒布部数改訂案を会告のように決定し, 常議員会に提案することとした。b) 支部交付金の基礎案を次のように決定し, 支部長会議を開催して協議すること (2 月 9 日招集)。

1. 正員は従来通りの会費の 10% を交付する。
1. 学生会員は交付金の対象としない。
1. 特別員は従来通りの会費入金の 50% とし, 定期刊行物実費を差し引いた額を交付する。

(2) 名譽員候補推薦に関する内規を次のように決定した。

(候補の推薦) 1. 土木学会理事会, 常議員会は次の各項の一つに該当するものを名譽員候補として総会に推薦することができる。(候補の資格) 2. 土木学会の会長, 副会長, 理事などの役員として多年学会の運営に尽力せられた 70 才以上の方。3. 土木学会の支部長であって多年学会の発展に尽力せられた 70 才以上の方。4. 多年にわたり土木工学に関する研究業績および土木事業に関し特に功績が顕著であると認められた方。5. 土木技術の国際交流に貢献した外国の方。6. 土木学会の事業経営に特別の援助を与えられた方。(候補推薦の手続き) 7. 候補推薦は会員若干名により資料を添付して推薦すること。8. 理事会, 常議員会は推薦せられた候補について協議し総会に推薦する。

(3) 1962 年 9 月開催の「キヤピテーションおよび水力機械国際会議」の後援を承諾する。(4) PC 指針調査研究費援助依頼状を承認。(5) 会費滞納者については理事関係者には理事名で催告を出すこと。(6) 35 年 12 月会員入退会を承認。告: 35 年 12 月会計報告, 刊行物申込一覧, 各種委員会の報告を承認。

◎各租委員会

1. 第 8 回文献調査委員会 (36.1.10) 出席者: 久野委員長, 外委員 8 名, 幹事 2 名。議事: 1) 46 巻 2 号登載文献抄録, 目録の選定。2) 文献項目について協議した結果, 各部門別について検討することとなった。3) 36 年度の委員会方針について。

2. 第 8 回会誌編集小委員会 (36.1.11) 出席者: 堺副委員長, 外委員 3 名。議事: 1) 46 巻 1 月号口絵写真, ニュースの決定。2) 36 年度表紙の刷色の決定。3) 広告の位置について検討。4) 46 巻 2 月号登載原稿の決定。5) その他。

3. 水理委員会 (36.1.12) 出席者: 伊藤委員長, 外委員 20 名。議事: 1) 35 年度土木賞候補の水理関係応募を承認し, なおそのほかにないかを検討すること。2) 36 年度委員会の構成については, 運営規約を定めその規約にもとづいて委員の構成を立

案すること。3) 第 9 回国際水理学会議派遣候補者 8 名を決め申請すること。4) その他。

4. 第 4 回論文集各部委員会 (36.1.17) 出席者: 八十島, 末森両理事, 最上, 君島, 林, 丸安の各部長, 外委員および幹事 20 名。議事: 1) 各部会ごとに審査中原稿の審査報告。2) 新規受付原稿審査委員の決定。3) 36 年度の論文集の取扱いにつき八十島理事より学会側の方針につき説明があり, それにつき協議した結果了承した。4) 地方委員の紹介 中部支部 増田重臣氏 (2 部会) 岐阜大学教授。5) その他

5. 第 18 回 PC 指針改訂小委員会 (36.1.18) 出席者: 国分委員長, 外委員および幹事 18 名。議事: 1) 第 3 次原案の配布。2) 第 2 次審議未了の箇条 55 条~58 条を逐条審議。3) 新たに第 3 次原案に加えた箇条につき, その理由および内容につき幹事より説明, 了承。次回委員会はこの箇条 (20 条) と 2 次審議未了の箇条 59~63 条につき審議する。4) 今回配布した第 3 次原案を関係者に配布して意見を聞くこと。

6. 構造物耐震設計研究委員会 (36.1.19) 出席者: 久保幹事長, 外 16 名。議事: 1) レンガ目地の曲げ引張試験結果の報告。2) 震害構脚の震度計算結果の報告。3) 震害構脚, 橋脚の震度計算の考察。4) 35 年度の報告および 36 年度の計画。5) 35 年度報告書作成について。6) 次回幹事会を 2 月 8 日に決定。

7. 文献調査委員会水理部会打合せ (36.1.20) 出席者: 水理関係委員 5 名。議事: 分類項目 (案) のうち, 水理, 港湾および海岸工学, 発電水力・ダム, 衛生工学の各部門につき共通事項等の打合わせを行なった。

8. 第 12 回フライアッシュ小委員会 (36.1.20) 出席者: 国分委員長, 外委員 20 名。議事: 1) 前回小委員会の議事録承認。2) フライアッシュ 講演会論文集発行および販売経過報告。2) 今回の耐久性試験は長期にわたるので次の各氏を新委員に追加。

日本セメント 塚山隆一 東大 長滝重義
小野田セメント 土岐高史 電研 徳田 弘

4) 耐久性試験の実施方法につき審議。5) 次回第 13 回小委員会は 3 月 31 日に開催する。

9. 第 44 回耐震工学委員会 (36.1.23) 出席者: 岡本委員, 外 8 名。議事: 1) WCEE 経過報告—Proceeding は 2 月上旬でできる予定および学術会議で配布の予定数について。2) 国際地震工学研修所—36 年度以降の計画について。3) UNESCO technical assistant—チリ大学における技術講義の援助についての UNESCO からの依頼には早大南教授を推薦したこと。4) UNESCO の地震調査団派遣について。5) 国鉄委託研究—本年年度の結果報告と来年度の計画について。6) 来年度の委員会事業計画。

10. 第 8 回会誌編集委員会 (36.1.24) 出席者: 八十島, 末森両理事, 堺副委員長, 外委員 13 名。議事: 1) 投稿原稿の審査報告。2) 新規受付原稿審査委員の決定。3) 依頼原稿について。4) 講座の件については 幹事案を示し, 次回までに検討すること。5) 各国の文献を通じて各部門の研究動向の紹介の執筆者について。6) 八十島理事より, 論文集を希望者へ有料頒布するに当り, 論文要旨を学会誌へ登載したい旨希望がありました。

11. 文献調査委員会応力部会打合せ (36.1.24) 出席者: 応力関係委員 7 名。議事: 分類項目 (案) のうち, 応用力学, 土質力学, 測定, 材料, コンクリートおよび鉄筋コンクリート, 橋梁および金属構造物, 農業土木の各部門につき共通事項等の打合わせを行なった。

12. 文献調査委員会道路・鉄道・都市計画部会打合せ (36.1.25) 出席者: 担当委員 4 名。議事: 分類項目 (案) のうち, 道路, 鉄道, 都市計画, トンネル, 航空港の各部門につき共通事項の打合わせを行なった。

13. 第4回論文集部会長会 (36.1.25) 出席者: 最上委員長, 外部会長3名, 部会幹事3名, 委員会幹事1名。議事: 1) 各部会報告。2) 論文集第73号登載原稿の決定。3) 36年度論文集の編集方針につき協議したが結論が出ず, 3月1日に臨時部会長会を開き協議する。

14. 第1回出版企画常任委員会 (36.1.25) 出席者: 末森専務, 佐藤, 荒井正副委員長, 八十島常任委員長, 外常任委員6名。常任幹事3名。議事: 1) 委員会内規について。2) 委員追加について。3) 新規出版計画について。4) その他。

支 部 だ よ り

1. 関西支部

(1) 第9回幹事会 (36.1.9, 大阪建設会館) 出席者: 近藤支部長, 伊藤, 岡田, 北村, 小林, 中川, 毛利, 石田, 打田, 大村の各幹事, 前支部長 鈴木角一野, 同 江口 馨

(2) 海外事情講演会 (36.1.18, 大阪府農林会館) 参加者: 59名, 参加費無料。

編 集
後 記

いくさなし (19374 億円) 予算。そうあれかしと思った大蔵省の悲願も, 各省の分取りいくさの結果 19527 億円と膨れ上がったようだ。「人食うゴジラ」予算だ, と下らぬ語呂合わせをして得意がっている人がいる。われわれの生活を脅かす予算だとの意味らしい。この内容のよしあしはわからないが 35 年度当初予算とくらべると 23% の大巾増加であり, 財政投融资もこれまで前年度とくらべると 18% の増加となっているそうである。ところが, こんなに膨れ上がった予算案に対し公共事業関係費が少なすぎると各省とも御不満のようである。給料袋をあけるたびに税金が多すぎると慨嘆しているようなわれわれに

は, 一寸想像を越えた天文学的数字合わせである。

最近 5 年計画という文字をよく見かける。新道路 5 年計画, 港湾整備 5 年計画, 国鉄第二次 5 年計画, 住宅建設 5 年計画, etc. 所得倍増計画にともない, 新しい計画が練りなおされることは当然でもあり, 景気の良い話であるが空念仏に終らないように願いたいものである。

新春早々こんな夫婦問答があった。女房が亭主にいました。「新生活 10 年計画を立てましょうよ」。亭主が答えました。「ああ, 非常に結構だね。女房がいました。「まず貴方の飲み代を全部子供の教育費の方にまわして載きたいわ」。亭主憤然として「冗談いうなよ。

そんな駄目だよ」と。こんな成算のない長期計画は御面こうむりたい。

とに角今年土木屋にとっては忙しい年になりそうである。誠に嬉しいきわみであるが, ただ一つ気掛りなのは本当にこれら長期計画を順調に遂行するだけの設計, 施行能力が十分にあるであろうか。

土木学会が真に土木現場技術者の技術的にも精神的にもよき寄り所となり, 本誌が誰からも頼りにされ, 愛される機関誌となることを心から願うものである。それがためには現場の声と, 辛らつな御批判をどしどし賜りたい。そしてお互に切磋琢磨して技術的「力」を涵養して, この新しい時代に備えたいと思う。宜しく願います。 【S・記】

会員入退会について (昭和 36 年 1 月 31 日現在)

1. 入 会	74 名	(正 45, 学 26, 特 1 B 1, 特 1 C 1, 特 2 1)
2. 退 会	29 名	(正 29)
3. 死 亡	2 名	(正 2)

会 員 現 在 数 (昭和 36 年 1 月 31 日現在)

名誉	賛助	特級	特 1 A	特 1 B	特 1 C	特 2	特 3	正員	学生員	計	増加
32	30	9	10	22	107	129	130	13 677	1 325	15 471	43

正 員	脇 沢 正 君	国鉄建設局線増課長	昭和 36 年 1 月 20 日死去	46 才
正 員	河 野 繁 一 君	秩父鉄道 KK 常務取締役	昭和 36 年 1 月 22 日 "	83 才

昭和 36 年 2 月 10 日印刷

印刷者 大沼正吉
 発行者 末森猛雄
 定価 100 円

昭和 36 年 2 月 15 日発行

印刷所 株式会社技報堂
 発行所 社団法人土木学会
 振替 東京 16828 番

土木学会誌 第 46 巻 第 2 号

東京都港区赤坂溜池 5 番地
 東京都新宿区四谷一丁目 (外濠公園入口)
 電話 (351) 5130・5138・5139 番